

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(全巡回担当校)



3年間大切にすることとして掲げた学年のテーマや学校行事での写真を学年の廊下に掲示。生徒一人一人が学年や学級を居場所として感じられ、安心して過ごせる環境をつくっている。(A中学校)

学校の良いところ(学校自慢)を漢字1文字で表現し、その理由を書いたカードを掲示。生徒一人一人にとって居心地の良い学校づくりを意識して行っている取組である。(B中学校)



移動教室の事前学習の成果を班員全員で作成し、学年の廊下に掲示して、事前学習の成果を認め合う取組を行っている。(C中学校)

生徒一人一人が体育祭の目標を書き、クラスごとに模造紙に貼り付け、学年の廊下に掲示している。(D中学校)

生徒会主催のレクパーティーを昼休みに開催している。学年問わず全校で交流できる場を設定している。(E中学校)

#### 【取組2】(A中学校)

不登校対応巡回教員が、支援を必要とする生徒が在籍する学級で、学校サポーターと連携し学習支援を行う。生徒の学習内容への理解が深まるよう、安心して質問できる環境を整え、自己肯定感を高める授業づくりの支援を行っている。

#### 【取組3】(C中学校)

校内別室を設置するにあたり、不登校対応巡回教員の役割や目的などを記載した資料を作成し、教職員への周知を図った。



## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（全巡回担当校）

- ・各校、週に1回校内委員会や生活指導部会を開催し、生徒情報の共有を行い、課題となっていることを協議して、生徒の状況に応じた支援の方法を検討している。参加するメンバーは、管理職、登校支援コーディネーター、生活指導主任、養護教諭、各学年主任、SC、不登校対応巡回教員、SSW等である。

#### アウトリーチによる支援（E中学校）

- ・月に1回、都の巡回心理士による巡回相談を活用し、当該生徒の行動観察を行い、生徒の状況に応じた適切な支援について助言等を受けている。今後の当該生徒への支援や対応策の方向性を相談している。

#### 校内別室における支援（全巡回担当校）

- ・不登校対応巡回教員（週1回）
- ・校内別室指導支援員（毎日：B中、E中、週2日：D中）を中心に当該生徒の校内別室登校のサポートを実施
- ・担任の代わりに、朝学活や帰り学活時の挨拶、学習時のサポート、励ましを実施
- ・SCが週1回、該当生徒のカウンセリングを実施（E中）
- ・学生ボランティアによる学習支援を実施（D中）

#### デジタル機器を活用した支援（全巡回担当校）

- ・一人1台端末を活用し、オンライン授業を実施している。

（E中学校）



- ・学習支援ソフト等を活用し、学習のつまづき部分の学び直しに取り組んでいる。

#### 関係機関との連携（全巡回担当校）

- ・子ども家庭支援センターやSSWと連携を図り、当該生徒の家庭での情報を共有するなどして、生徒の状況を把握している。生徒一人一人に応じた支援の在り方を支援会議で検討し、関係機関と連携して実施している。

## 成 果

校内別室の活用により、安定して登校できる生徒が増えた。毎日登校できる生徒や、定期的に登校する生徒が見られるようになった。

## 課 題

校内別室を利用する生徒の保護者の中には、教室復帰を望んでいる場合もある。生徒本人の意向等を尊重しながら調整をしていくことの難しさが課題である。